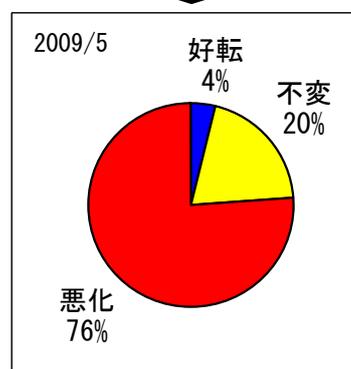
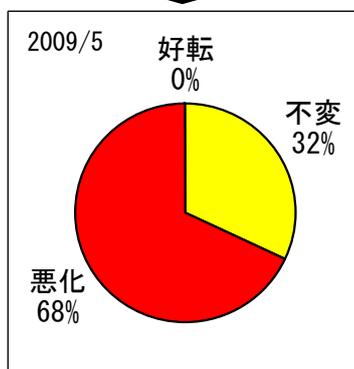
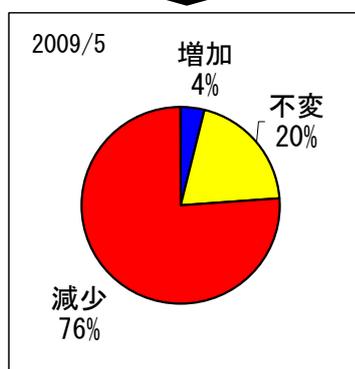
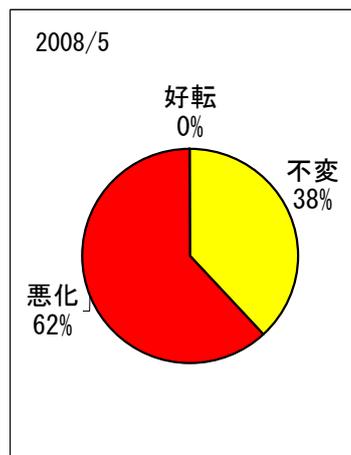
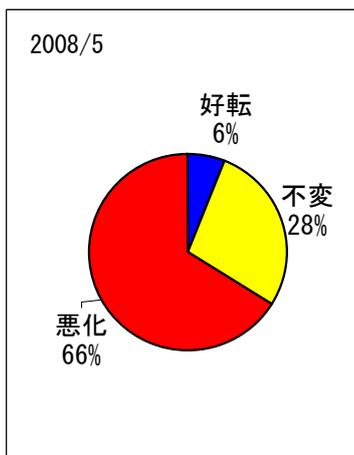
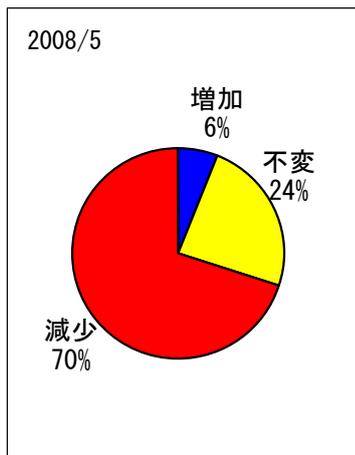


データから見た業界の動き (平成21年5月分)

売上高 (前年同月比)

収益状況 (前年同月比)

景況感 (前年同月比)



■ 対前年同月比及び前月比景気動向D I 値 (好転又は増加の割合から、悪化又は減少の割合を引いた値)

区 分	製造業			非製造業			合 計		
	08/5	09/4	09/5	08/5	09/4	09/5	2008/5	2009/4	2009/5
対前年,前月,当月									
売上高	-70	-60	-75	-60	-80	-70	-64	-72	-72
収益状況	-60	-60	-75	-60	-70	-63	-60	-66	-68
景況感	-55	-70	-70	-67	-73	-73	-62	-72	-72

※((良数値÷対象数)×100) - ((悪数値÷対象数)×100)=D.I値

■ 概 況

本県の5月の景況は、全業種のD I値では、売上高-72（前年同月比-8）、収益状況-68（前年同月比-2）、景況感-72（前年同月比-10）と前月比で非製造業のポイントがやや回復しているものの、D I値は総じて低い水準に止まっており、厳しい状況は続いている。

業種別では、製造業のD I値が、売上高-75（前年同月比-5）、収益状況は-75（前年同月比-15）、景況感-70（前年同月比-15）。

非製造業のD I値では、売上高-70（前年同月比-10）、収益状況-63（前年同月比-3）、景況感-73（前年同月比-6）となっている。

5月は、小売、飲食、宿泊業等、ゴールデンウィークへの期待感を高めていたものの、予想を下回る結果となった。さらに、新型インフルエンザの影響を受けた業種も見受けられるなど、情報連絡員からの報告は全体として厳しいものとなった。

また、引き続き、受注、仕事の減少などを要因とする様々な問題が深刻化する一方で、原油価格の値上がりが進展しつつあり、再び経済への影響が懸念される。

■ トピックス

【コメント】

今回は業界（組合員企業）において直面している経営上の課題について尋ね、上位3項目を列挙して頂いた。

上位を占める経営上の課題を業種別で見ると、製造業においては「受注量・仕事量の減少」が圧倒的に占めた。続いて「事業資金の借入難」、「事業資金の返済難」、「同業他社との競争激化」の順となった。

非製造業でも「受注量・仕事量の減少」を1位とする回答が圧倒的に多く、続いて2位も製造業と同様、「事業資金の借入難」となった。3位は「受注単価の低下（下落）」、「同業他社との競争激化」となっているが、受注単価の低下（下落）は、同業他社との競争激化が要因となっている。

製造業、非製造業におけるその他の少数回答では「後継者不足」「熟練技術者の確保難」「雇用調整・業務時間の調整」といった人材や雇用に関する課題が挙げられた。

■ 業界の声

【製造業】

- 食料品（水産物加工）／先行き不安から買い控えが見られる。また、婚礼用食材も不調。原料は海外での競合も一段落し、価格低下はあるが採算はなんとか維持している。
- 食料品（洋菓子製造）／円高から台湾向け輸出が半減。また豚インフルエンザの影響で関西方面の百貨店、スーパー向けの販売がダウン。
- 食料品（製麺）／GWは高速料金の値下げの追い風による土産関係を期待していたが、目立った動きはなかった。連休明けに売上が減少。
- 食料品（菓子）／5月は定額給付金もあり、売上も多少の増加が見られたが、心ない業者の産地偽装や表示違反などがあり消費者の疑惑を招き、食の信頼を損ねている。
- 食料品（ワイン）／組合活動は順調に推移してきているが、業界は世界・国内の不況をまともに受けている。
- 繊維・同製品（織物）／インフルエンザの影響で百貨店等の売上が大幅にダウン(特に関西)。そのため得意先からの仕入れに急ブレーキがかかった。5月は全商材が悪い。
- 繊維・同製品（アパレル）／5月はインフルエンザが業績悪化に追い打ちをかけた。今後の見通しは不明。
- 木材・木製品製造／現在の見積件数が少なすぎる。2、3ヶ月後の仕事量は激減すると予測。
- 家具製造／5月以降の商品の売れ行きは壊滅的となった。今後の成り行きを心配。
- 紙・紙加工品／重油価格は上昇基調。主原料のパルプは値下がりから来月以降上昇へ。全般的に稼働率は低下している。
- 印刷／政府等の発表では、景気は底を打ち少しずつ上昇傾向にあるといわれるが、実感としては低調。多額の政府の経済対策にどこまで期待が持てるか。中小零細企業まで恩恵があるか。
- 窯業・土石（砂利）／前年同月と比べ、売上高はやや増加。これは、前年度工事の繰り越しによるもので景気が上向いたためではない。組合員全体が仕事不足の状況。第2四半期にはいると景気浮揚策により前倒し発注が予測され、秋口から明るい兆しが見られると考えている。ただし、それまで我慢できるかという厳しい局面である。
- 窯業・土石（生コン）／5月は入札がほとんど無く、出荷量が減少。
- 鉄鋼・金属／一部の企業は、50%位に仕事量が戻ってきたが、これは、大手企業の在庫との兼ね合いで量産状況にはない。半導体関連は、まったく仕事がない。2、3月よりも5%弱程度4、5月の受注量は増加。
- 電気機器／一時的には上昇傾向も感じられたが、全般的には厳しい状況。当地域は、精密部品を主とするプレスを営む企業と、多種少量の設備関係の仕事を営む企業とに二分され、プレスの場合は部品によって24時間操業もあれば1日を通して全く動かないプレスもある。設備関係では各メーカーの抑制からその影響は大であり、先の全く見えない状況。
- その他(貴金属)／受注が激減しており、在庫もうまくはけない状況。卸機能が低下しておりOEMも低調。地金相場の高騰により、安い素材に変化してきたが、ろう付けや磨きの勝手が違うため、従来の知識や経験が生かせない。新しい素材の部品の在庫も抱えなければならず負担が大きい。

【非製造業】

- 卸売（紙製品）／古紙の発生は家庭系においては分別指導の浸透により安定している。しかし、製造業界は景気の動向に大きく左右され半減している。総計として前年の90%くらいの集荷状況である。製紙メーカーの製品の販売が思うように行かず古紙の仕入れが前年比50~60%である。そのため問屋筋の在庫が膨張している。在庫減らしのための中国輸出が行なわれ逆ザヤで大きな損失を生じている。景気の回復が長引くことにより全国的に廃業するところが今後拡大していく見込み。
- 卸売（宝飾）／不安定な雇用や生活不安による個人消費の落ち込みに加え、予想以上に新型インフルエンザが悪影響を与えている。店頭売り上げが大きく下がっている
- 小売（SC）／GWの動きがあまりよくなかった。また、例年よりも、観光客の流入が若干減少した。高速料金の値下げ効果あまり感じられなかった。また、新型インフルエンザでもお客様の動きがはっきりと減少した。そのなかでも売上を伸ばしている店舗をヒントにしたい。
- 小売（食肉）／GW明けから、客数・客単価ともに前年を大きく下回った。特に牛肉の購入量が大きく減少、単価の低い商品への移行が見られる。また、大型店の相次ぐ出店も影響がある。
- 小売（電機製品）／5/15以降、家電3品（テレビ、冷蔵庫、エアコン）に対する「エコポイントの活用によるグリーン家電普及事業」の補正予算が成立したが、具体的な事項が決まっていない。そのため消費者は買い控え、地域店は苦戦している。去年は好調だったボーナス商戦だが、経済の悪化により読めない状況。
- 小売（事務機文具）／ホームセンターやインターネットでの低価格での販売に伴い、小売店への来客数、客単価が低下してきている。また、商品の品揃えについても問屋減、価格競争などにより難しくなっている。商業集積施設やドラッグストアなどの県外大手資本の相次ぐ出店により、ついで買い傾向にある。
- 小売（石油）／元売り各社が中東原油の値上がりと輸入コストアップ、更には、需要の増加によりガソリン等が平均3円の値上がりとなったため、各給油所も3円程度の値上げを実施した。
- 商店街／郊外の大型集積施設開店により、通行量減少。新型インフルエンザも影響し観光客も減少。
- 商店街／商品券発行及びそれに関連した特別セールの実施により売上は増加。新型インフルエンザによりマスクや消毒液等の需要増加も要因。
- 不動産取引／経済危機対策に伴い住宅ローン「フラット35」が拡充された。この雇用不安でどの程度の効果があるか不明であるが、多少の期待感がある。
- 宿泊業／甲府善光寺の御開帳や高速道路料金の割引にて観光客は多少増えたものの、仕事の出張は依然減少したままでビジネスホテルにとっては厳しい状況が続いている。新インフルエンザの影響により海外旅行者（特に中国）が減少しており、経営状況を圧迫している。競争により価格低下となり、利益率が悪化している。
- 宿泊業／新型インフルエンザの影響により関西方面からの修学旅行が中止又は延期となり、各施設に大打撃。GWの宿泊者数は変化無いが宿泊金額が低下しており、収益が減少している。全国的に失業率も増加している中、旅行意欲が湧く状況にない。
- 美容業／景気対策は実施されているものの、上向きは感じられない。来店客のサイクルも長く、快方には向いていない。客単価も低迷している。
- 自動車整備／倒産、廃業による車両減、仕事減。更に軽自動車への乗り換えなど整備料金の減少が見られる。
- 建設（住宅関連）／雇用不安により、住宅建築意欲がそがれている。
- 建設業（型枠）／民間工事はもちろん、公共工事も少なく仕事が全然無い組合員も少なくない。年明けから連休明けまでは物件が無く、見積依頼もなかったが、最近は公共施設の耐震工事を中心に見積依頼が増え始めた。しかし、建設工事が少なくなっているため、受注競争から1つの物件に複数の見積を徴する状況になっている。競争激化により工事原価割れでの受注をせざるを得ない物件もある。
- 建設業（鉄構）／相変わらず工事物件は少なく組合員事業所の稼働率は低下の一途であり、一部を除いて工場稼働率は30%程度まで落ち込んでいる。国交省の発表では、推定鉄骨需要量が3ヶ月連続で30万トン台で推移（前年同月比59%減）となっている。
- 設備工事（電気工事）／年度末工事が終わり新年度予算執行の工事発注はこれから議会通過後となる。環境関連の工事発注が期待される。早期の速効性のある工事発注が望まれる。
- 設備工事（管設備）／上下水道局からの共同受注工事量が減少。6月より始まる共同受注工事である公道内漏水調査及び修理が前年度以上の発注になることを望む。
- 運輸（タクシー）／連休、甲府善光寺の御開帳には多くの参拝客が訪れたが、タクシーの利用には結びつかず。
- 運輸（バス）／景気は停滞したまま、燃料はじわじわと上昇。行政の仕事は予算の都合からか相見積りにて価格低下。内部留保も底をつき非常に厳しい状況。
- 運輸（トラック）／メーカーでは製品在庫が減少していると思われるが、生産が行われていない。かなり慎重な対応となっている。
- その他（介護）／人手不足は永遠のテーマである。毎週の新聞広告掲載、企業ガイダンス等の参加も積極的にしているが、就労条件や介護業務にマッチする条件の方がなかなかいないのが現状。